図書館Café

発行 / 神奈川工科大学附属図書館 2011.11.30

創刊号 Vol.1 No.1

図書館Caféの発刊 ― 学びの支援のために ―

図書館長/機械工学科教授　田辺　誠

自ら学び、考え、何かを創り出すことが（創意工夫）、社会に役立つ人材として成長するうえで最も重要であると言われております。そのためにはまず読書が第１歩かと思います。学生時代に古今東西の名著に触れ、良書にめぐり合い、人生に目覚め、学びの糧を得て大きく成長することができます。図書館では学生諸君の自らの学びを支援するために、様々な図書等をそろえ、また学習のための静かな場所を用意しております。ぜひ空き時間にはいつでも図書館に来て、好きなだけ図書を借り、自らの学習に役立てていただきたいと思います。そこでこのたび、学生諸君と図書館をつなぎ、学びを支援するために図書館 Café を発刊することになりました。

ここでは、図書館からの役立つお知らせ、図書案内、イベント、スタッフの声等などを紹介いたします。学生コーナーでは、学生諸君のイベント体験記、読書感想、声等を紹介いたします。学生諸君のさまざまな投稿を歓迎いたします。また豊かな経験の教職員に、人生を変えた図書、進路を決めた１冊、旅行記、推薦の１冊・DVD 等の紹介をお願いしております。

この図書館 Café は、学生と教職員で創る、面白くて役に立ち、１杯の入れたてのおいしいコーヒーのようにフレッシュでいい香りのする、学びを励まし支援するお便りにしたく、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

「滞在型図書館」へGO！

読書は学びのスタート！
月に１冊は図書を借り、学びを広げましょう。
図書館は皆さんを応援します。

昨年９月に『滞在型図書館』として１階フロアをリニューアルしてから、１年以上が経過しました。雰囲気も設備も一新した新フロアをもう利用されましたか？

来館者数は、昨年９月から今年７月現在までの合計で 20 万 1,518 人に達し、昨年同期間と比べて約２万 8,000 人増加（！）しました。カウンター前のグループラウンジエリアは、仲間同士の活発なディスカッションの声が聞こえる活気ある学習空間となりました。

また、USB メモリを利用可能なパソコンで長時間熱心にレポート作成をする姿も見受けられ、試験期間中は１日平均５時間（平日）にせまる利用となりました。２階・３階の無線 LAN 設備など、その他の新設備も利用者の皆さんに徐々に浸透しつつあるようです。

今後は、従来の図書と電子資料のサービス提供に加え、新たに強化された『空間』としての機能を活用し、PBL 教育の場や、積極的な学習支援サービスの充実をめざして創意工夫に努めてまいります。（S・W）

【快適空間をぜひ活用してください！（写真は１階フロア）】

図書館で学生の職場体験

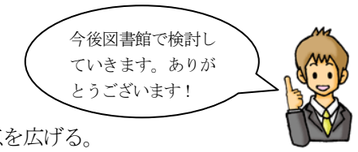
図書館では８月 17 日から 23 日まで、学内インターンシップの参加学生５名を受け入れました。
業務経験を踏まえた学生からの提言と、職場体験の感想をご紹介します。

提言　「図書館利用率 10%アップのために」

情報ﾈｯﾄﾜｰｸ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科　大里　真由

今回のインターンシップで私達に課された課題は、“図書館利用率 10%アップのための提言”でした。そこで、利用者視点で図書館の現状について考え、宣伝活動をしても情報が利用者に届いていない現状から、図書館業務の『見える化』が必要と考えました。広告やポスターでの掲示や HP アクセス数を増やす事で来館者数が増加し、またそれにより貸出冊数などの増加に繋がることから、図書館利用率 10%アップのために以下の提案をします。

1. 図書館ポスターのレイアウトを改善し、学内にパンフレットを置く。
2. HP のレイアウトを改善し、学生同士が情報交換できる掲示板を作る。
3. Twitter を始める事で情報伝達の高速化を図る。
4. 企画展示の実施と支援を部活・サークルに依頼し、学生と図書館の接点を広げる。



情報工学科　木下　洸太

サービスを提供するためには、見えていないところでの業務が非常に多く、そして重要だと気づきました。それぞれの業務には関連性があり、すべてをしっかりこなすことで快適なサービスを提供できるのだと実感しました。

情報ﾈｯﾄﾜｰｸ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科　大里　真由

人の話を聞きメモを取る大切さ、自発的に行動すること、報告・連絡・相談の大切さ、仕事を任される＝責任を背負うということを学びました。また、スタッフや利用者の方たちと接することや、インターンシップ参加メンバーで一つの課題に取り組むことで、コミュニケーションの大切さを学ぶことができ、自分自身の成長に繋がったと感じました。

情報ﾈｯﾄﾜｰｸ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科　片野　雄太

開館作業、カウンター接遇、書架整理業務、企画展示準備、雑誌・図書受け入れ、閉館作業とさまざまな業務を体験させてもらいました。そのどれをとっても利用者のことを第一に考え、使いやすく、管理しやすくなっていたことに感心しました。また、組織の中で働くということはどういうことなのか、ということも学びました。

【インターンシップに参加した皆さん】

情報ﾈｯﾄﾜｰｸ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科　加納　裕貴

今回、学内の図書館ということで、親しみを持って臨むことができました。一番驚いたことは、業務が想像していたよりも多く、手間をかけて運営していることでした。このことを知ることができただけでも、これから社会人になる身としては間違いなくプラスになりました。

機械工学科　並木　翔汰竜

今回のインターンシップを通じて会社で働くということを経験できたのは、これから社会に出て働く自分としてはとても有意義なことでした。この経験を生かしてこれからの就職氷河期を乗り越えていきたいと思います。

図書館 Café　Vol.1 No.1（創刊号）
発行日　2011 年 11 月 30 日
発行所　神奈川工科大学附属図書館
館長　田辺　誠
印刷　神奈川工科大学印刷室

編集委員会
編集長　安塚　俊行
編集委員　春日　秀雄・楠木　伊津美・佐藤　生男
渡邉　怜・酒井　誠

海外から日本を見てみよう

基礎・教養教育センター教授　尾崎　正延

2002 年 1 月 1 日、ユーロの使用が始まり、国際基軸通貨となった。かくて EU への旅は飛躍的に便利になった。昨今ユーロ危機が懸念されるが、EU 各国の協力でこの難局が打開されることを願う。察するに、1920 年代に争い無き一つのヨーロッパを構想し、「汎ヨーロッパ運動」を標榜したクーデンホーフカレルギー伯爵も思いは同じであろう。周知のように、彼の母「光子」の名は、ゲラン(Guerlain)の香水「ミツコ」として名を留めている（シュミット村木眞寿美『クーデンホーフ光子の手記』川手文庫)。彼はヒトラーから命を狙われるが、不朽の名作「カサブランカ」でラズロ役の男としてリスボンに落ち延びた。彼にとって、今年 6 月にクロアチアが加わり、EU が 28 カ国に拡大したことは、感無量であろう。

【クロアチア、「アドリア海の真珠」ドブロブニク旧市街】

私は「拡大 EU」について研究しているので、毎夏、東欧へ調査に赴いている。数年後、セルビアも EU に加盟するであろう。そのセルビアに今夏 5 度目の調査に入った。5 年前ベオグラードで、長井前大使に定宿のコンチネンタルホテルに迎えに来ていただき、それ以来毎年晩餐を共にし、後任の角崎大使には一昨年、今年と光栄にも大使公邸にて宴席を設けて頂いた。

航空券は自分で直接航空会社から購入し、ホテルは Booking.com で探す。一泊 100 ユーロ～130 ユーロが目安なら、旅程は自分で決めることを薦めるが、時として落とし穴もある。プラハからブダペストへの途中、食堂車で食事中に自分の車両がウィーン手前で切り離されたりする珍道中も間々ある。行き先を決めたら、とりあえず「地球の歩き方」等を参考にしよう。本学の図書館にも各国の本が所蔵されている。

【セルビアのハイパーインフレ時(1993年)の紙幣
5000億ディナーラ （ 約410円 ）】

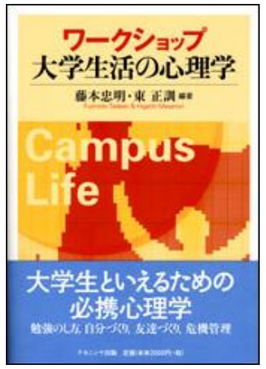
近年、学生の内向き志向が懸念され、産業空洞化に伴う就業の海外移転という現実を直視すれば、海外に出て、一度外から日本を見つめることも必要であろう。

【角崎利夫セルビア大使公邸にて】

先生おすすめの１冊

『ワークショップ　大学生活の心理学』

基礎・教養教育センター教授　安塚　俊行



【藤本忠明・東　正訓(編著）2009 年　ナカニシヤ出版刊
図書館 2 階に所蔵あり(請求記号　377.9//F)】

高校生から大学生になると何が違ってくるだろうか。たとえば、教室での自分の席が決まっていない、自分で時間割を作る、自分の性格が気になる、人間関係に敏感になる、二輪車や四輪車で通学できる、などが挙げられる。本書は大学生に特有のこれらの問題に、心理学の視点からひとつひとつ丁寧に答えている。学習技術については第 2 章、性格については第 5 章、悪徳商法やカルト教団に引っかからないようにするには第 7 章、交通事故に遭わないようにするには同じく第 7 章、といった具合である。さらに、卒業後の進路についてはキャリアデザインという観点から第 8 章で考察している。

このように本書は大学 1 年生から 4 年生まで役立つ情報を満載している。「面白い ― つまらない」「役に立つ ― 役に立たない」という 2 つの軸で評価すると、まさに「面白くて、役に立つ」書物である。大学生にとって大事なことは、大学に適応して充実した生活を送り、社会人になる準備をすることである。その意味でも有益な本であり、お薦めの 1 冊である。

先生おすすめの１本

ヒーローキャラクターのルーツ～映画『シェーン』

情報メディア学科特任教授　梶　研吾

これまでにも―――

映画、ドラマ、漫画、アニメ、小説、ゲーム……あらゆるエンターテインメントメディアの中から、数多くのヒーローが生まれて来た。

その中で、ベスト・オブ・ベストはいったい誰か？！

そう問われれば、これはもう千差万別、その人それぞれにとっての愛するヒーローキャラクターが存在するはずで、たった一人に絞り込むのは至難の業だろう。

しかし、敢えて、ヒーローキャラクターのベストワンを挙げるとするならば、往年のハリウッド西部劇映画の名作『シェーン』の主人公、タイトルロールのシェーンに尽きる。

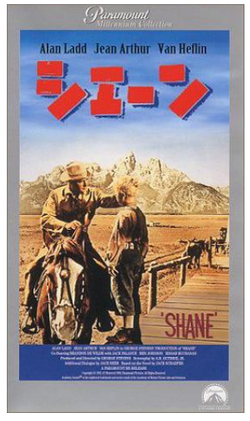
なぜなら―――

孤独であること、誇り高くあること、凄腕であること、しかしそれを決して自慢しないこと、女性や子供に優しいこと、男同士の友情に厚いこと、己れの信念を守り抜くこと、正義の守護神であること、さらには、自らの命を賭けて他人の幸福を守ること。つまりは、ヒーローの必須条件とされるもののすべてが、シェーンという流れ者のガンマンの中にあるからである。

ヒーローキャラクターのエッセンスを学びたくば、そのルーツとでもいうべき『シェーン』を観なさい、とここに断言する次第。

ヒーロー不在といわれて久しい今こそ―――

シェーン、カムバック！



【図書館の AV ブースで視聴できます】